

自己評価総括表

4:十分達成できている 3:おおむね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

分類	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	特色ある学校づくり	自ら学ぶ態度の育成	「早朝学習」を行い、自学自習の態度を育成する。	進路指導部が企画し、各学年・教科と連携し運営する。生徒の学力に合った課題の準備及び事後指導を行う。	3	生徒の自学自習に対する意識は高まってきており、「早朝学習」に対する取組は概ね良好である。しかし、放課後や家庭での時間を主体的に活用するというレベルまでは達していない。「早朝学習」の実施内容についても改善の余地がある。
		読書の習慣化	「朝読書」を行い、読書習慣の定着を図る。	生徒と一緒に全職員も取り組む。図書部がアンケートを年2回実施し、改善に努める。	3	生徒の「朝読書」への取り組みは概ね良好である。担任以外の職員の取り組みがあまり見られない。「生徒と共に朝読書をする」意識の高揚を図りたい。
		SSHの推進	国際社会で活躍できる科学技術系人材を育成する。大学や研究機関との連携を図る。22年度以降の活動の在り方を研究する。	外国人研究者による講義や関東研修を実施する。地元大学を中心に研修や体験授業等を実施する。文科省及び先進校の情報を積極的に収集し研究を深める。	3	平成18年度の指定から二つの研究開発テーマに沿ったSSH事業を展開している。今年度、無事中間発表を終えることができたが、指定終了後意識した取組も始めている。今後はさらに職員のSSHへの意識高揚を図り、学校総体として取り組んでいきたい。
		国際交流の推進	米国の姉妹校訪問を通して、国際交流を図る。	英語科で立案し、選考された生徒を毎年9月姉妹校に訪問させ、国際交流を行う。	3	モンタナ派遣は特に問題なく実施できた。その経験を周囲や地域にどうアピールするかが重要なので、HPやりんどうを通じて広報したい。派遣団員の選考方法を工夫したい。
	教育課程の工夫	生徒の学力向上に繋がる教育課程の編成	普通科、理数科、美術科の各学科の特色に応じた教育課程を編成する。	教務部を中心に、生徒の現状や各教科・各教科からの意見を踏まえ、教育課程委員会で検討する。	3	理数科、美術科の専門科目を前期で増やし、各学科の特色に応じた教育課程の編成が概ねできている。前期7時間授業を含め、授業日数（長期休業の日数）や授業時間等について検討の余地がある。
		総合的な学習の時間（GL）の推進	小論文活動や進路研究を中心に「生きる力」を育成する。	研修部を中心に、学年・進路指導部と検討し、内容の充実を図る。	3	総合的な学習の時間については、各学年において、コミュニケーションをはかり、小論文活動を中心に自ら考える力をつける取り組みを実施している。今後は、1年間を通じた活動にすることや内容の見直しも必要である。
	学校行事の運営	学校行事の円滑な運営（行事の精選）	早めの計画、周知徹底を行い、円滑な運営に努める。授業時間確保のため行事の精選に努める。	総務部を中心に月毎に各分掌・学年及び行事担当等と密接な連携を図り、調整を行う。学校評価結果等を基に検討する。	3	総務部をはじめ各部との連携を図り、早めの計画がなされてスムーズに行事運営が行われた。各部の行事が多くなりやすいので行事内容の精選に努める。行事がLHRの日に偏る傾向にあり、行事計画に工夫が必要である。生徒への連絡は徹底できているが、内容を充実させる工夫をしなければならない。
	開かれた学校づくり	情報の公開・発信	学校通信やHPで学校の現状や考えを積極的に発信する。	二高会報・進路だより・学年便りやHPを活用し、情報を定期的に発信する。	3	学校HP育友会新聞等を通して地域社会への情報発信に努めた。ホームページによる進路実績情報も、多方面からの反応が見られた。HPは総務部としては計画的に更新ができたが、学校全体としては全く更新がなされていない部署があり、不十分である。
		学校評価の充実	学校評価の充実	学校評価を行い、学校教育活動全般の改善に努める。	3	要項に則り予定どおり実施しているが、初めての取組でまだ趣旨が徹底していない。今後、趣旨の徹底と評価結果をもとに課題の解決に努めていきたい。従来の学校評価と混同しているところも見られる。
	安全管理の取り組み	健康教育の推進	心身の健康に関する意識を高める。	年4回テーマを設定し、保健だよりを発行する。養護教諭を中心に学年・担任等と密接な連絡をとる。	4	保健だよりはタイムリーな話題にスポットを当て、計画通りに発行できている。学年・担任と養護教諭の連携が密接で、上手に健康教室・教育相談室を利用する生徒が増えてきた。
		定期健康診断の計画的な実施	健康診断を通して配慮を要する生徒の確実な把握と観察指導を行う。	健康に関する連絡会や健康相談を定期的実施する。	3	検査結果より配慮を要する生徒に対し適切な事後指導を心掛け、担任との連携をとることが出来た。学年会などで報告できる時間があると学年の中でさらに連携を深めることが出来たのではないかと考える。
		施設設備の保守・点検	施設設備不備による事故の撲滅を図る。	年3回校内点検を実施する。安全管理に関する研修を年3回以上行う。	4	施設設備の不備による事故は皆無であったので、より一層の保守点検を図り、事故を発生させないようにしたい。

自己評価総括表

4:十分達成できている 3:おおむね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

分類	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学力向上	授業改善の取組	授業評価の導入 教師の指導力向上	授業評価を行い、授業改善に繋げる。 相互研鑽授業を実施し、教師の指導力の向上を図る。	教務部が立案し、12月に1・2年を対象に実施する。 研修部で立案し、全員年2回他者の授業見学を行う。	3 2 1	今年度から生徒による授業評価を導入した。その結果を踏まえ、改善を行い、次年度につなげたい。 相互研鑽授業は、教師間の授業の相互交流により各教師の授業に対する意欲を向上させている。同一の教科間では行いやすいが、教科を超えると難しい面がある。また、多忙な状況において実施率が低く、取り組みとして十分ではない。 実施できなかった。次年度は相互研鑽授業との棲み分けを図り実施したい。
			研究授業を行い、指導力向上に繋げる。	教務部で立案し、各教科で年1回以上実施する。	3	今年度から生徒による授業評価を導入した。その結果を踏まえ、改善を行い、次年度につなげたい。 相互研鑽授業は、教師間の授業の相互交流により各教師の授業に対する意欲を向上させている。同一の教科間では行いやすいが、教科を超えると難しい面がある。また、多忙な状況において実施率が低く、取り組みとして十分ではない。 実施できなかった。次年度は相互研鑽授業との棲み分けを図り実施したい。
	自学自習の充実	宅習（予習・復習）の習慣化	宅習時間の推移を把握し、指導に活かす。	教務部で立案し調査する。1・2年（年3回）、3年（2回）の調査結果を踏まえ、担任は面談を行う。	3	年3回（3年は2回）、各1週間の宅習時間調査を実施しており、他教科とのバランスもあるが、全体的に宅習時間は伸びている。このデータが担任、教科の指導に十分に活かされていない。また、宅習時間が不足している生徒もいるので、面談等を実施したい。
	個に応じた指導体制の確立	学力不振や不登校傾向の生徒に対する支援	長期休業中に補講を実施し、個に応じた指導を行う。	教務部が立案し、年4回（夏期・秋期・冬期・学年末）休業中に行い、生徒の学力を養う。	3	長期休業中の補講および考査前の個人指導については計画通り実施できた。補講の実施、運営はできているが、生徒の自学が中心となっている。個に応じた教科の指導体制が不十分である。
進路指導	キャリア教育の推進	進路実現に繋がるキャリア教育の展開 進路研究の深化	進路講演やキャリアガイダンスを実施し、生徒に職業観・勤労観を身に付けさせる。	学年ごとに進路講演会を実施し、学年と一緒に事前・事後指導を行う。ガイダンスには1年は職業別、2年は学問系統別に講師を招聘する。 進路研究の時間を計画的に設定する。	3 3	事後アンケートによると、オープンキャンパス・インターンシップへの参加で生徒の進路意識が高揚した。また、各種講演会・説明会等を通して、進路目標実現へ向けた心構えができた。これらをその後の個人的な進路研究にどう繋げていくかが課題である。 総合的な学習の時間については、各学年において、コミュニケーションをはかり、小論文活動を中心に自ら考える力をつける取組を実施している。今後は、1年間を通じた活動にすることや内容の見直しも必要である。
			進路検討会の実施	三者面談を実施し、希望や課題等を的確に把握する。 進路検討会を実施し、進路実現のための支援を行う。	全生徒を対象に計画的に三者面談を行う。学年と連携し事前研修を行い、面談後の課題の共有に努める。 年3回検討会を全職員で行い、資料を基に生徒の進路実現のための方策を検討する。	4 4
	進路目標の実現	課外・模試・土曜講座の取組	早朝学習・課外・土曜講座を行い、学力の定着・向上を目指す。	長期休業中、3年生の6月から課外を実施する。また、月2回土曜講座を実施し、学力の補強をする。	3	学校行事の変更等を除いて予定どおり早朝学習、課外、土曜講座を実施した。今後は早朝学習や土曜講座のねらいの再確認及び模試結果の有効活用などを検討していきたい。
			模試を行い生徒の実態を把握し、指導に活かす。	計画的に実施し、学年等と課題を共有する。	3	模試結果を検討会や各学年会で分析し、今後の指導について話し合った。学年外の職員にも伝えていく必要がある。
進路情報の発信	進路だより及び進路のてびきの発行	正しく分かりやすい情報を提供し、進路実現の一助とする。	進路だよりを年3回、進路の手引きを年1回発行する。保護者会時に配付し、ポイントを押さえた説明を行う。職員研修を行い、三者面談・家庭訪問で活用する。	3	当初の予定通り発行することができた。進路だよりについては、来校者等、校外への情報発信にも効果があった。しかし、進路のてびきについては今ひとつ校内での活用度が低いように思う。情報誌やインターネットの活用が原因であろうが、内容を検討し、より利用価値のあるものへと改善したい。	

自己評価総括表

4:十分達成できている 3:おおむね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

分類	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導	基本的生活習慣の指導	交通マナーの向上	交通安全指導を徹底し、事故の撲滅を図る。	交通安全教室・バウ通学生実技指導等を行う。	3	交通安全講話の実施、登校指導、下校指導の結果、自転車の傘さし運転や夜間の無灯火運転は減少したが、交通事故の撲滅はできなかった。 毎朝の登校指導等によって、挨拶の声も次第が大きくなっている。挨拶・服装は、概ねきちんとしているがまだ完全とは言えない。その場で指導していきたい。
		積極的な生活指導の展開	挨拶・服装指導を徹底する。	登校指導(毎日)、下校指導、自転車点検・服装検査を実施する。	3	
	環境美化の取組	清掃活動の推進	校内及び学校周辺の美化活動を推進する。花壇を整備し、環境整備に努める。	早朝掃除(毎日)、美化委員による清掃点検(学期2回)を行う。花壇整備(年10回)を実施する。	3	毎日の清掃の時間や早朝の部活動生の清掃活動によって校内及び学校周辺を綺麗に保つことが出来た。前期は花壇の整備が、計画通りにほぼ実施できたが、後期は行事変更があり、予定通りに実施できなかった。教室の整理整頓とゴミの分別は、まだ不十分である。
	生徒会活動・部活動の取り組み	生徒会活動の活性化 部活動の活性化	生徒による自主的で円滑な運営を支援する。 部活動加入率を上げ、定着を図る。	役員を中心に計画の段階で適切な指導、確認を行う。 あらゆる機会に部活動の意義を訴え、顧問による指導を充実する。	4 3	生徒会が中心となって、歓迎遠足・運動会・クラスマッチ・文化祭など計画・運営できた。 部活動の加入率は例年と変わらないが、総体優勝(団体・個人)の部も出て全体として活気が出てきた。
人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	教職員の人権意識の向上	職員の人権意識の高揚を図る。 校内研修の充実を図る。	毎月人権教育だよりを発行し、朝会等で紹介する。 人権教育推進委員会で研修について研究する。	3 3	人権便り(職員用)の配布で、職員の人権意識の向上に寄与できた。 また、DV講演会により、生徒たちは、性の問題を含めた幅広い人権問題を考えることができた。 定期的に推進委員会で研修や講演会等の内容を検討し、職員・生徒の人権意識の高揚を図った。校外研修への自発的な参加が少なかった。
		すべての教育活動を通じた取組の強化	分掌部や教科との連携	全ての部や教科で指導法の改善に努める。 基礎学力の定着(学力保障)に努める。	人権ポスター・標語を作成する。生徒会による取組を推進する。 各教科会で学力保障について研究する。	3
	学校、家庭、地域社会における取組の充実	学校、家庭、地域社会との連携	学校・家庭・地域社会との交流を促進する。	進路便り・学年通信等の活用。地域社会における研修への参加を呼びかける。	2	人権に関するチラシやテレビ・ラジオ番組等の紹介を生徒を通じて行ったが、成果が上がっているかわからない。人権教育講演会では、案内したが、保護者の参加は数名であった。
	不登校・適応指導の充実	不登校傾向の生徒に対する対応	可能限り教室への復帰を促す指導を行う。 生徒・保護者への支援体制を確立する。	研修を実施し、職員の共通理解を促進する。担任・教育相談部・カウンセラーの連携を密にする。 家庭訪問等を通して連携の徹底を図る。	3	研修等を通して生徒・保護者への支援体制は徐々にではあるが整いつつあると思われる。教育相談部との連携を図りながら、不登校傾向の生徒の実態は把握できている。しかし、教室への復帰を支援する有効な手立てがまだ不十分である。
校務の情報化	校務の情報化の推進	情報機器・校内LAN等の円滑な運用	安全な情報管理を行い、特に個人情報管理を徹底する。	不具合発生時には情報委員会で迅速に対応する。	3	個々のトラブルには速やかに対応できたが、常に新しい情報を取り入れて、危機管理をしなければならない。次年度以降、グループウェアの導入がなされれば現状の委員会では対応できなくなると思われる。 成績の管理体制については検討すべきである。 職員による生徒個人情報流出が起り、3回の研修を実施した。個人情報の管理に係る意識を全職員がもっと強く持つ必要がある。
		職員研修の実施	研修を行い、職員の情報スキルを向上させる。	研修部と連携し、情報に関する研修を年1回以上実施する。	2	
理数科・美術科の充実	理数科の充実	理数教育の充実	SSH事業を活用した理数教育の開発に努める。	フィールドワークに重点を置いた阿蘇・天草巡検や教育インターンシップを導入した課題研究を実施する。	3	課題研究に関しては、課題の設定、調査、まとめ、そして発表する能力の向上が見られた。しかし、インターンシップの利用については、大学の都合により実施はできていない。 学校設定科目「SSI」「SSII」「SSIII」を設け、前期2時間、後期1時間を使って充実した課題研究が実施できた。
		教育課程の研究	総合的な学習の時間の在り方を研究する。	教務を中心に理数科・学年等と研究する。	3	
	美術科の充実	実技力の向上 広報活動の充実	制作環境を整え、実技力の向上に努める。 県下唯一の美術科のアピールに努める。	美術棟を整理し、石膏デッサン室や図書室を設置する。 「美術科だより」を発行し、職員や保護者に配付しHPに掲載する。	3 3	石膏素描室や図書資料室など制作環境を充実させたことで、生徒の制作意欲が高まった。 教務部と連携し、中学校への学校説明会に参加した。各種公募展への出品や県庁壁画の制作などで、美術科のアピールにつながった。